

は じ め に

群馬県は、海拔13mの低地から2,500mを超える高山まで変化に富んだ地形を有し、また、尾瀬などの湿原や湖沼、流域面積日本一を誇る利根川をはじめとした豊富な水資源に恵まれるなど、良好な環境に育まれて多種多様な生態系が形成されてきました。

一方で、産業や経済の急激な発展は人間の生活環境に変化をもたらし、自然環境にも大きな影響を与えました。本県においても、開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、近年では、外来生物の侵入やシカの食害などによる生態系の攪乱といった問題が発生しています。

このような状況の中、県では、2014年に「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例」を制定し、希少野生動植物種の保護対策に取り組むとともに、2017年には「生物多様性ぐんま戦略」を策定し、生物多様性を保全しつつ、県民の理解を深めて持続可能な形での利用を進めるための取組を行っています。また、2022年には、より現況に即した希少野生動植物種の保護対策を図るため、「レッドデータブック2022年改訂版」を発刊し、ここで明らかになった新たな情報や知見を基に、2023年には「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例」で指定する特定県内希少種の見直しを行うなど、更なる保護対策を進めています。さらに、外来種対策に活用するため、2024年に「群馬県生態系等被害防止外来種リスト」を作成しました。

また、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」が新たな国際目標となる中で、群馬県は令和6年12月に、都道府県として初めて「ネイチャーポジティブ宣言」を行いました。これを機に、2030年のネイチャーポジティブ実現に向けて官民共創で取り組み、健全な生態系を確保しつつ、自然資本を守り生かす社会経済活動を推進していきます。

「良好な自然環境を有する地域学術調査」は、これまで受け継がれてきた自然環境を良好な状態で残し、後の世代に伝えるための施策の一つとして、地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」への委託により実施しており、40年以上にわたり、本県の自然環境の実態解明を続けてきました。

本書は、2024年度に実施した調査結果を取りまとめた報告書であり、「浅間山北麓地域」、「県立榛名公園周辺地域」など全7地域の調査結果を掲載しています。

この調査結果が、希少野生動植物種の保護対策のための基礎資料として、行政機関のみならず、県民の皆様に広く活用されることで、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた群馬県自然環境調査研究会の皆様には深く感謝申し上げるとともに、調査の援助をいただきましたサポート隊の皆様をはじめ、御協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2025年10月

群馬県環境森林部自然環境課長 白田 栄慈

目 次

1 浅間山北麓地域〔2年目〕	1
2 県立榛名公園周辺地域〔1年目〕	55
3 妙義山金洞沢・星穴沢.....	123
4 群馬県立榛名公園沼ノ原草刈実験〔2年目〕	131
5 覚満淵湿原及び山頂カルデラ内〔補完調査〕	135
6 希少動物モニタリング.....	191
7 シカの生息状況が哺乳類相に与える影響調査（7年目）	195
群馬県自然環境調査研究会会員名簿（令和6年4月12日現在）	203